

工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表(建築等)

[記入方法]該当する項目「・」に○、×を記入する。(※施工プロ)とは、「施工プロセスのチェックリスト」でチェックされた項目である。(検査員)

考 査 項 目	細 別	a	b	c	d	e
		施工管理が適切である	施工管理がほぼ適切である	他の事項に該当しない	施工管理がやや不備である	施工管理が不備である
2. 施工状況	I. 施工管理	【評価対象項目】 ・ 約款第18条第1項(1)から(5)に基づく設計図書の照査を、適切に処理していることが確認できる。 ・ 施工計画書の記載内容と現場施工方法が、一致していることが確認できる。 ・ 施工計画書が工事着手前に提出され、設計図書及び現場条件を反映した内容となっていることが確認できる。 ・ 計画内容に変更が生じた場合は、その都度当該工事着手前に変更計画書が提出されていることが確認できる。 ・ 品質確保のための対策など施工に関する独自の工夫がみられる。 ・ 段階(立会)確認等の手続きが、適切であることが確認できる。 ・ 建設廃棄物の処理及びリサイクルへの取り組みが、適切に行われていることが確認できる。 ・ 建退共の証紙が適切に配布され、管理されていることが確認できる。 ・ 作業分担と責任の範囲が書面等で確認できる。 ・ 施工体制台帳、施工体系図が的確に整理されている。 ・ 社内検査が計画的に行われ、出来形・品質等の管理が工事全般にわたって十分に行っていることが確認できる。 ・ 社内の管理基準により、日常的に管理されていることが確認できる。 ・ 工事材料の品質に影響が無いよう、工事材料を整理・保管していることが確認できる。 ・ 工事の関係書類及び工事記録写真等を不足なく、適切に整理していることが確認できる。 ・ その他()				・ 施工管理に関して、監督員から文書による改善指示を行った。 上記1項目該当事項があれば・・・ d ・ 施工管理に関して、監督員から文書による改善指示に従わなかった。 上記1項目該当事項があれば・・・ e
		●判断基準 評価値が90%以上..... a 評価値が80%以上～90%未満..... b 評価値が60%以上～80%未満..... c 評価値が60%未満..... d ※評価対象項目が2項目以下の場合は「c」評価とする。	●評価方法 ①チェック項目「・」、該当なしは「×」、評価の対象としない項目は－を記載する。 ②評価対象項目「□」のうち、該当項目は「レ」、該当なしは「×」、評価の対象としないものは－を記載する。 ③評価対象項目の下欄のチェック項目「・」が複雑の場合、チェック項目数の2/3以上あれば、□を■に変更する。 (該当していることを明示) ④評価値 ()% = 該当項目数()／評価対象項目数()			

評価

工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表(建築等)

[記入方法]該当する項目「・」に○、×を記入する。(※施工プロ)とは、「施工プロセスのチェックリスト」でチェックされた項目である。(検査員)

考 査 項 目	細 別	a	a´	b	b´	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	I. 出来形	●評価対象項目 ・ 承諾図等が、設計図書を満足していることが確認できる。 ・ 施工図等が、設計図書を満足していることが確認できる。 ・ 施工計画書等で、出来形の管理基準を設定し、計画に基づく管理を実施していることが確認できる。 ・ 出来形管理方法が、工夫されていることが確認できる。 ・ 現場における出来形が設計図書を満足し、適切な施工であることが確認できる。 ・ 現場における出来形が良好で、施工の精度が高い。 ・ 自社の写真管理基準を設定し、工夫をもって適切に管理していることが確認できる。 ・ 不可視部分となる出来形が、工事写真・施工記録により、確認できる。 ・ 解体又は撤去工事の場合、撤去対象異物の範囲等が確認でき、適切な処分を行っていることが確認できる。 ・ その他（ ） ●判断基準 評価値が90%以上.....a 評価値が80%以上90%未満.....a´ 評価値が70%以上80%未満.....b 評価値が60%以上70%未満.....b´ 評価値が50%以上60%未満.....c 評価値が50%未満.....d					・ 出来形の管理に関して、監督員から文書による改善指示を行った。 上記該当事項があれば・・・ d ・ 出来形が不適切であったため、検査職員が文書による修補指示を行った。 上記該当事項があれば・・・ e	
							●評価方法 ①当該「評価対象項目」のうち、評価の対象としない項目は削除する。 ②項目数を変更する場合は、変更後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合は「c」評価とする。 ④評価値（ ）% = 該当項目数（ ）／評価対象項目数（ ）	
							評価	

工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表(建築等)

[記入方法]該当する項目「・」に○、×を記入する。(※施工プロ)とは、「施工プロセスのチェックリスト」でチェックされた項目で (検査員)

考 査 項 目	細 別	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e					
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	建築工事 (新築)	●評価対象項目 (躯体工事) - 材料・製品の品質が、製作図等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。 - 施工の各段階における完了時の試験及び記録方法が、適切であることが確認できる。 - 材料の品質確認記録の内容が、適切であることが確認できる。 - 品質の確認結果が、分かりやすく整理されていることが確認できる。 - 施工の品質が適切であり、設計図書を満足していることが確認できる。 - 不可視部分となる品質が、工事写真・施工記録により確認できる。 - 中間検査等で実施していた、工夫や良好な施工の品質が、継続して確認できる。 - その他() (仕上工事) - 材料・製品の品質が、製作図等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。 - 施工の各段階における完了時の試験及び記録方法が、適切であることが確認できる。 - 材料の品質確認記録の内容が、適切であることが確認できる。 - 品質の確認結果が、分かりやすく整理されていることが確認できる。 - 施工の品質が適切であり、設計図書を満足していることが確認できる。 - 不可視部分となる品質が、工事写真・施工記録により確認できる。 - 中間検査等で実施していた、工夫や良好な施工の品質が、継続して確認できる。 - その他()						品質の管理に関して、監督員から文書による改善指示を行った。 上記該当であれば d 品質が不適切であったため、検査職員が文書による修補指示を行った。 上記該当であれば e					
			評価値が90%以上a 評価値が80%以上90%未満a' 評価値が70%以上80%未満b 評価値が60%以上70%未満b' 評価値が50%以上60%未満c 評価値が50%未満d						●評価方法 ①当該「評価対象項目」のうち、評価の対象としない項目は削除する。 ②項目数を変更する場合は、変更後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合は「c」評価とする。 ④評価値 ()% = 該当項目数 () / 評価対象項目数 ()					
									評価					
			細 別		工 種	a	b	c	d					
Ⅲ. 出来ばえ		建築工事 (新築)	優れている		やや優れている		他の評価に該当しない		劣っている					
			●評価対象項目 - きめ細やかな施工がなされ、取り合いの納まりや端部までの仕上がりが良い。 - 関連工事(工種)又は既存部分との調整がなされ、調和が良い仕上がりである。 - 使い勝手や使用者の安全に対する配慮に優れている。 - 仕上りの状態が良好で、作動状態も良好である。 - 色調が均一であり、色むら等が無く、全体的な美観が良好である。 - 材料・製品の割付や通り等が良く、全体的な出来ばえが良好である。 - 保全に配慮した施工がなされている。 - その他()											
			●判断基準 該当 5 項目以上a 該当 4 項目b 該当 3 項目c 該当 2 項目以下d						<table><tr><td>評価する項目数</td><td>評価</td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>		評価する項目数	評価		
			評価する項目数	評価										

工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表(建築等)

[記入方法]該当する項目「・」に○、×を記入する。(※施工プロ)とは、「施工プロセスのチェックリスト」でチェックされた項目で

(検査員)

考 査 項 目	細 別	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	建築工事 (改修)	●評価対象項目 (躯体工事) ・ 材料・製品の品質が、製作図等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。 ・ 施工の各段階における完了時の試験及び記録方法が、適切であることが確認できる。 ・ 材料の品質確認記録の内容が、適切であることが確認できる。 ・ 品質の確認結果が、分かりやすく整理されていることが確認できる。 ・ 施工の品質が適切であり、設計図書を満足していることが確認できる。 ・ 不可視部分となる品質が、工事写真・施工記録により確認できる。 ・ 中間検査等で実施していた、工夫や良好な施工の品質が、継続して確認できる。 ・ その他() (仕上工事) ・ 材料・製品の品質が、製作図等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。 ・ 施工の各段階における完了時の試験及び記録方法が、適切であることが確認できる。 ・ 材料の品質確認記録の内容が、適切であることが確認できる。 ・ 品質の確認結果が、分かりやすく整理されていることが確認できる。 ・ 施工の品質が適切であり、設計図書を満足していることが確認できる。 ・ 不可視部分となる品質が、工事写真・施工記録により確認できる。 ・ 中間検査等で実施していた、工夫や良好な施工の品質が、継続して確認できる。 ・ その他() 評価値が90%以上a 評価値が80%以上90%未満a' 評価値が70%以上80%未満b 評価値が60%以上70%未満b' 評価値が50%以上60%未満c 評価値が50%未満d ●評価方法 ①当該「評価対象項目」のうち、評価の対象としない項目は削除する。 ②項目数を変更する場合は、変更後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合は「c」評価とする。 ④評価値 ()% = 該当項目数 () / 評価対象項目数 ()						・ 品質の管理に関して、監督員から文書による改善指示を行った。 上記該当であれば d ・ 品質が不適切であったため、検査職員が文書による修補指示を行った。 上記該当であれば e
	細 別	工 種	a	b	c	d			
	Ⅲ. 出来ばえ	建築工事 (改修)	●評価対象項目 ・ きめ細やかな施工がなされ、取り合いの納まりや端部までの仕上がりが良い。 ・ 関連工事(工種)又は既存部分との調整がなされ、調和が良い仕上がりである。 ・ 使い勝手や使用者の安全に対する配慮に優れている。 ・ 仕上りの状態が良好で、作動状態も良好である。 ・ 色調が均一であり、色むら等が無く、全体的な美観が良好である。 ・ 材料・製品の割付や通り等が良く、全体的な出来ばえが良好である。 ・ 保全に配慮した施工がなされている。 ・ その他() ●判断基準 該当 5 項目以上a 該当 4 項目b 該当 3 項目c 該当 2 項目以下d	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている		

評価

評価する項目数	評価

工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表(建築等)

[記入方法]該当する項目「・」に○、×を記入する。(※施工プロ)とは、「施工プロセスのチェックリスト」でチェックされた項目で (検査員)

考 査 項 目	細 別	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	電気設備工事 電気通信工事	●評価対象項目 ・ 材料・製品の品質が、製作図等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。 ・ 施工の各段階における完了時の試験及び記録方法が、適切であることが確認できる。 ・ 機材の品質確認記録の内容が、適切であることが確認できる。 ・ 品質の確認結果が、分かりやすく整理されていることが確認できる。 ・ 施工の品質が適切であり、設計図書を満足していることが確認できる。 ・ システムの性能及び機能に関する試運転の確認方法が適切であり、記録の内容が設計図書を満足していることが確認できる。 ・ システムの性能及び機能に関する試運転の確認方法に工夫がある。 ・ 不可視部分となる品質、工事写真・施工記録により確認できる。 ・ 中間検査等で実施していた工夫や良好な施工の品質が、継続して確認できる。 ・ 運転・点検上の表示及び危険箇所などの表示等が明確で分かりやすい。 ・ その他()						品質の管理に関して、監督員から文書による改善指示を行った。 上記該当であれば d 品質が不適切であったため、検査職員が文書による修補指示を行った。 上記該当であれば e
		評価値が90%以上a 評価値が80%以上90%未満a' 評価値が70%以上80%未満b 評価値が60%以上70%未満b' 評価値が50%以上60%未満c 評価値が50%未満d						●評価方法 ①当該「評価対象項目」のうち、評価の対象としない項目は削除する。 ②項目数を変更する場合は、変更後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合は「c」評価とする。 ④評価値 ()% = 該当項目数 () / 評価対象項目数 ()	評価
		細 別	工 種	a	b	c	d		
Ⅲ. 出来ばえ	Ⅲ. 出来ばえ	電気設備工事 電気通信工事	●評価対象項目 ・ きめ細やかな施工がなされている。 ・ 関連工事(工種)又は既存部分との調整がなされ、調和が良い仕上がりである。 ・ 機器又はシステムとして、運転状態が正常であり、性能が優れている。 ・ 環境負荷低減への対策が優れている。 ・ 運転操作及び保守点検等の容易さを確保するための配慮がなされている。 ・ その他()						
		●判断基準 該当 4 項目以上a 該当 3 項目b 該当 2 項目c 該当 1 項目以下d						評価する項目数 評価	
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている				

工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表(建築等)

[記入方法]該当する項目「・」に○、×を記入する。(※施工プロ)とは、「施工プロセスのチェックリスト」でチェックされた項目で (検査員)

考 査 項 目	細 別	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	機械設備工事	●評価対象項目 ・ 機材のの品質が、承諾図等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。 ・ 施工の各段階における完了時の試験及び記録方法が、適切であることが確認できる。 ・ 機材の品質確認記録の内容が、適切であることが確認できる。 ・ 品質の確認結果が、分かりやすく整理されていることが確認できる。 ・ 施工の品質が適切であり、設計図書を満足していることが確認できる。 ・ 施工の品質が、試験や検査等の結果の記録により、優れていることが確認できる。 ・ システムの性能及び機能に関する試運転の確認方法が適施節であり、記録の内容が設計図書を満足していることが確認できる。 ・ システムの性能及び気に関する試運転の確認方法に工夫がある。 ・ 不可視部分となる品質が、工事写真・施工記録により確認できる。 ・ 中間検査等で実施していた工夫や良好な施工の品質が、継続して確認できる。 ・ 運転・点検上の表示及び危険箇所などの表示等が明確で分かりやすい。 ・ その他() 評価値が90%以上a 評価値が80%以上90%未満a' 評価値が70%以上80%未満b 評価値が60%以上70%未満b' 評価値が50%以上60%未満c 評価値が50%未満d ●評価方法 ①当該「評価対象項目」のうち、評価の対象としない項目は削除する。 ②項目数を変更する場合は、変更後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合は「c」評価とする。 ④評価値 ()% = 該当項目数 () / 評価対象項目数 ()						・ 品質の管理に関して、監督員から文書による改善指示を行った。 上記該当であれば d ・ 品質が不適切であったため、検査職員が文書による修補指示を行った。 上記該当であれば e
			細 別	工 種	a	b	c	d	
			Ⅲ. 出来ばえ	機械設備工事	●評価対象項目 ・ きめ細やかな施工がなされている。 ・ 関連工事(工種)又は既存部分との調整がなされ、調和が良い仕上がりである。 ・ 機器又はシステムとして、運転状態が正常であり、性能が優れている。 ・ 環境負荷低減への対策が優れている。 ・ 運転操作及び保守点検等の容易さを確保するための配慮がなされている。 ・ その他() ●判断基準 該当 4 項目以上a 該当 3 項目b 該当 2 項目c 該当 1 項目以下d	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている

評価

評価する項目数	評価

工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表(建築等)

[記入方法]該当する項目「・」に○、×を記入する。(※施工プロ)とは、「施工プロセスのチェックリスト」でチェックされた項目で (検査員)

考 査 項 目	細 別	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	外構工事	●評価対象項目 ・ 材料・製品の品質が、承諾図等により確認でき、設計図書を満足していることが確認できる。 ・ 施工の各段階における完了時の試験及び記録方法が、適切であることが確認できる。 ・ 機材の品質確認記録の内容が、適切であることが確認できる。 ・ 品質の確認結果が、分かりやすく整理されていることが確認できる。 ・ 施工の品質が適切であり、設計図書を満足していることが確認できる。 ・ 不可視部分となる品質が、工事写真・施工記録により確認できる。 ・ 中間検査等で実施していた工夫や良好な施工の品質が、継続して確認できる。 ・ 運転・点検上の表示及び危険個所などの表示等が明確で分かりやすい。 ・ その他()						・ 品質の管理に関して、監督員から文書による改善指示を行った。 上記該当であれば d ・ 品質が不適切であったため、検査職員が文書による修補指示を行った。 上記該当であれば e	
			評価値が90%以上a 評価値が80%以上90%未満a' 評価値が70%以上80%未満b 評価値が60%以上70%未満b' 評価値が50%以上60%未満c 評価値が50%未満d						●評価方法 ①当該「評価対象項目」のうち、評価の対象としない項目は削除する。 ②項目数を変更する場合は、変更後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③なお、削除後の評価対象項目数が3項目以下の場合は「c」評価とする。 ④評価値 ()% = 該当項目数 () / 評価対象項目数 ()	評価
	細 別	工 種	a		b		c	d		
			優れている		やや優れている		他の評価に該当しない	劣っている		
	Ⅲ. 出来ばえ	外構工事	●評価対象項目 ・ きめ細やかな施工がなされている。 ・ 関連工事(工種)又は既存部分との調整がなされ、調和が良い仕上がりである。 ・ 使い勝手や使用者の安全に対する配慮に優れている。 ・ 仕上がりの状態が良好で、作動状態も良好である。 ・ 色調が均一で、色むら等が無く、全体的な美観が良好である。 ・ 材料・製品の割付や通り等が良く、全体的な出来ばえが良好である。 ・ 保全に配慮した施工がなされている。 ・ その他()							
●判断基準 該当 5 項目以上a 該当 4 項目b 該当 3 項目c 該当 2 項目以下d						評価する項目数	評価			

工事成績採点の考査項目の考査項目別運用表(建築等)

[記入方法]該当する項目「・」に○、×を記入する。(※施工プロ)とは、「施工プロセスのチェックリスト」でチェックされた項目で (検査員)

考 査 項 目	細 別	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ. 品質	解体工事	●評価対象項目 ・ 振動・騒音・粉塵・汚濁水等により、第三者に被害をおよぼさないよう施工していることが確認できる。 ・ 供用中の道路・住宅等に影響をおよぼさないよう施工していることが確認できる。 ・ 本体構造物の一部を撤去する場合には、本体構造物に損害を与えないよう施工していることが確認できる。 ・ 取り壊しを分離し、それぞれ収集運搬、処理が適正に行われていることが、産業排気物管理票(マニフェスト)で確認できる。 ・ 不可視部分となる品質が、工事写真・施工記録により確認できる。 ・ その他の事項について設計図書に基づいて施工されている。 ・ その他() 確認項目の該当5項目以上a 確認項目の該当4項目a' 確認項目の該当3項目b 確認項目の該当2項目b' 確認項目の該当1項目以上c						▪ 品質の管理に関して、監督員から文書による改善指示を行った。 上記該当であれば d ▪ 品質が不適切であったため、検査職員が文書による修補指示を行った。 上記該当であれば e	
									<table><tr><td>評価する項目数</td><td>評価</td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>	評価する項目数
評価する項目数	評価									
	細 別	工 種	a	b	c	d				
	Ⅲ. 出来ばえ	外構工事	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている				
●評価対象項目 ・ 既存部分や関連施設との調整がなされている。 ・ 安全及び環境に対する配慮が適切である。 ・ 製地状況が良い。 ・ 解体撤去後の全体的な美観が良い。 ・ その他() ●判断基準 該当 3 項目以上a 該当 2 項目b 該当 1 項目c 該当 0 項目以下d						<table><tr><td>評価する項目数</td><td>評価</td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>	評価する項目数	評価		
評価する項目数	評価									